

教育実習の手引き



実習校	学校名	担当教諭名
	配置学級 年 組	
琉球大学 学部		
フリガナ		学籍番号
実習生 氏名		
学部教育実習委員氏名		学部指導教員名

琉球大学 教職課程実習委員会

目 次

1	教育実習の意義	1
2	教育実習の目的	1
3	教育実習の単位と授業実習時間	1
4	教育実習にあたっての心得	2
5	教育実習直前の実習校との事前の打ち合わせ	3
6	教育実習生の服装・身なり	3
7	教育実習生の勤務	4
8	学校の組織運営（校務分掌組織図）	6
9	教科指導	7
10	教育実習中の心身の健康管理	8
11	教育実習中の危機管理	9
12	教育実習の中断における対応	13
13	教育実習後の対応	13
14	生徒理解	13
15	教育実習の形態	13
16	観察実習の視点	14
17	授業設計の基本	15
18	学習指導案の作成	16
19	授業研究会	21
20	教育実習記録簿の記入上の留意点	21
21	各教科における学習指導案の定型または指導案例	
(1)	高等学校国語科学習指導案	23
(2)	高等学校地理歴史科（地理総合）学習指導案	27
(3)	高等学校数学科学習指導案	31
(4)	高等学校外国語学習指導案	36
(5)	高等学校理科（生物）学習指導案	40
(6)	高等学校農業（科目「生産加工」）学習指導案	43

1. 教育実習の意義

教育実習は将来教師を目指している学生が講義等で学んだ諸々の教育理論を体験的・実践的に検証、確認することを通して、生徒理解及び授業づくり、教職等について学ぶ唯一の機会と言えます。教職の場合は、他の多くの職業と異なり、採用後直ちに教壇に立ち、学校・保護者・地域・社会に対しても、教師としての責任を負わなければならない。このように考えると、教育実習は、皆さん一人一人が「学生」ではなく、「先生」として見られ、自覚と責任のある行動が求められる欠くことのできない重要なものであることが分かります。また、教育実習を通して、教育者となるための資質や能力、適性が備わっているかを判断したり、教職を志望していく上での課題をつかんだりすることがきわめて重要となります。

2. 教育実習の目的

- (1) 生徒の実態を把握し、教育活動についての理解を深める。
- (2) 教育環境・教育活動全般にわたる認識を深める。
- (3) 教員として生徒を指導するのに必要な専門的な技術を習得する。
- (4) 教育実習における様々な課題に対して、積極的に解決しようとする態度を身に付ける。
- (5) 教育者としての愛情を深め使命感を持ち、教員としての資質・能力や適性について自覚する。

3. 教育実習の単位と授業実習時間

教育実習（公立等）の期間は、4単位の場合は3週間から4週間、2単位の場合は2週間とする。

授業実習は、4単位の場合は10時間以上、2単位の場合は5時間以上行うことを原則とする。ただし、実習校に規定がある場合や諸事情がある場合はそれに従うこと。

単位数	4単位	2単位
期間	3週間～4週間	2週間
授業実習	10時間以上	5時間以上



4. 教育実習にあたっての心得

教育実習は、「教職に就くことを強く志望する者」にのみ参加の機会を与えられた特殊できわめて重要な実習科目です。無資格でありながら授業を担当する機会が与えられ、専門職と同等の経験ができるという特徴があります。半面、その対象は日々成長、発達をとげつつある生徒ですから、甘えや怠慢は許されません。観察、参加および授業実習を通じて、教育の理論と実践の基礎的能力を養い、教育実践力を身に付けていく意識を持って参加してください。

実習生は、以下のことをしっかり守って教育実習に臨むことが大切です。なお、教育実習の指導は、大学側の教員と実習校の教員が協力して担当することになっていますが、実際には実習校の校長、教頭、教務主任と担当教諭が主にこの指導にあたっています。従って、実習校における勤務及び行動は、実習校の方針や指示に従うことが重要です。また、教育実習の前後及び期間中は、授業の準備や振り返りに多くの時間を要するので、実習に専念できる環境を常に整えておくことが大切です。

- (1) 教育実習に参加できる学生は、これまでに麻疹予防ワクチンの接種歴が（1歳以上で）2回以上あること、麻疹の罹患歴があること、又は「麻疹抗体価検査」による検査結果が陽性であることのいずれかを、記録で確認できる者を原則とする。
- (2) 風疹、水痘、おたふくかぜの予防ワクチン接種を、これまでに2回以上受け、その抗体ができていることが望ましい。
- (3) 実習期間中は、生徒にとって実習生も教師である。教師としての責任と自覚を持った行動をする。
- (4) 実習校の服務規程に従い、積極的な態度で教育実習にあたる。
- (5) 言葉づかい・服装容儀・挙動に注意し、実習学校教職員にはもちろん、生徒・保護者に対しても気持ちよいあいさつをする。
- (6) 実習期間中に知り得た個人情報、絶対に外部の者に漏らさないこと。また、実習に関する内容はSNSで情報発信してはならない（匿名、加工済画像、限定公開も不可）。実習後も、これらの守秘義務を守る。
- (7) 様々な教育活動等には、時間に余裕を持って臨み、遅れることがないようにする（時間厳守）。
- (8) 見通しのある計画を持って、参加・観察・授業実習に心がける。
- (9) 教材研究を深め、学習指導計画案を作成し、指定された日の前日までに担当教諭に提出する。
- (10) 担当教諭をはじめ他の先生方に対して、積極的に指導助言を請うようにし、その指導助言に対しては、どんな些細なことでも素直に受け止め、改善に努める。
- (11) 日々の実習について振り返り、その日のうちに教育実習記録簿に記し、担当教諭の押印をもらうこと。
- (12) 生徒に対する指導においては、次の点に配慮する。
 - ① 生徒の気持ちに寄り添い、生徒とのふれ合いをできるだけ多く持つように心がける。
 - ② 指導にあたっては、公平で親しみのある態度で接し、努めて生徒と関わり合う機会を多く持つようにする。ただし、1対1での指導や度を越えたスキンシップについては行わないこと。
 - ③ 生徒の安全の確保や健康状態に、常に配慮し、必要に応じて担当教諭や養護教諭に連絡・相談・報告する。
 - ④ 生徒に対して絶対に体罰・ハラスメントを行ってはならない。
 - ⑤ 教育実習の期間中、実習終了後においても、附属学校の担当教諭の承認なしに生徒を校外に引率してはならない。登下校や休日に会うこともしてはならない。
 - ⑥ 生徒とSNS（ライン等）やメール、通話での情報のやり取りをしてはならない。
 - ⑦ 生徒の前で実習校の教職員や保護者、大学教員の批判をしてはならない。
- (13) 実習期間中は、実習先の教職員とアルコールを伴う飲食をしてはならない。

5. 教育実習直前の実習校との事前の打ち合わせ

実習直前の打ち合わせで大切なことは、自分にとって必要な情報をきちんと確認することです。

- (1) ホームページ等で実習校に関する情報収集を行い把握しておく。
- (2) 学校を訪問する際は、正装（リクルートスーツ）または白のワイシャツにネクタイ、白のブラウスに名札（大学指定）を着用する。
- (3) 自己紹介においては、教員志望であることをきちんと伝える。曖昧な動機で教育実習をされては、生徒及び学校にとっては大変迷惑なこととなる。教育実習を断られる場合もある。
- (4) 配属学年、使用教科書、実習で担当する単元の確認をする。
- (5) 出勤簿の場所、日課表及び週時程表の確認をする。
- (6) 通勤に関して自家用車使用が可能かどうかを確認する（駐車場が確保できない学校もあるため）。
- (7) 昼食は弁当持参なのか給食なのかを確認する。
- (8) 欠勤、遅刻、早退の場合の連絡・手続き方法について確認する。



6. 教育実習生の服装・身なり

- (1) 県内における教育実習中の服装は、TPOに応じて下記の①、②を基本とする。
 - ① 実習校への挨拶（実習前・後）、生徒及び職員との初顔合わせ、研究授業において
→ 正装（リクルートスーツ）または白のワイシャツにネクタイ、白のブラウス
 - ② 通勤時、観察実習、参加実習、授業実習等において
→ 白のワイシャツにノーネクタイ、白のブラウス
- (2) 県外における教育実習中の服装は、正装を基本とする。また、服装については、実習校に確認する。
- (3) 教育実習中は、常時名札をつけること。名札の様式は、教職センターのHPからダウンロードする。
名札（両面記入）の長さは、ワイシャツの第三ボタンの位置に調整する。
- (4) 身なりは、華美にならず、清潔、清楚を心がける。

名札について

<見本>

教育実習生	
琉球大学〇〇学部	
教科名 理科	
りゅうきゅう	たろう
琉球太郎	

学名：15ポイント程度
科名：15ポイント程度
ふりがな：12ポイント程度
氏名：28ポイント程度

※「琉球大学教職センター」HPから様式をダウンロードできる。

7. 教育実習生の勤務

実習期間中の勤務態度は、教育実習を行う上で最も基本的なものです。また、実習校から一番評価を受けやすいという側面ももっていますので、下記の事項に留意して臨みましょう。

- (1) 実習生は、学校長をはじめとする実習校教員の指導の下で実習にあたること。
- (2) 勤務時間は実習校の教員に準ずるものとし、できるだけ30分前までに出勤すること。
- (3) 勤務時間は原則、中学校が8時15分～16時45分、
高 校が8時30分～17時00分
となっているが、各自で事前に実習校の勤務時間を確認しておくこと。
- (4) 出勤したら、必ず出勤簿に押印すること。
- (5) 勤務時間内にやむを得ず校外に出る場合は、必ず担当教諭および教頭の許可を得ること。
- (6) 勤務を終えたら、担当教諭及び職員室にいる教員にひと声掛けて帰宅すること。
- (7) 原則として遅刻、早退、欠勤は認めない。しかし病気または事故等、やむを得ない理由で欠勤や遅刻、早退をする場合は必ず下記の手続きを行うこと。
 - ① 欠勤 始業30分前までには電話で連絡し、後日、欠勤届を担当教諭へ提出する。
 - ② 遅刻 遅刻した時には、速やかに遅刻届を担当教諭へ提出する。
出勤途中にもし遅刻しそうになったら電話で「遅れること」を連絡する。
 - ③ 早退 早退前に担当教諭または教頭の許可を得て、同時に早退届を提出する。
- (8) 欠勤・遅刻または早退により、実習の時数及び日数が不足する場合には、補講等により所定の教育実習時間または日数を確保すること。ただし補講については、P1の「3. 教育実習の単位と授業実数時間」に従い実習校と調整して実施すること。補講を実施する場合、大学側の担当教員へ報告も行うこと。
- (9) 学校感染症及び3親等内の忌引き以外の欠勤が3日以上となり、補講の対応が困難であると実習校が判断した場合には、教育実習は中断となるので留意すること。
- (10) 3親等以内の忌引きの場合の勤務については、担当教諭を通して教頭と調整し対応すること。

提出日：〇〇 年 月 日 ()

教育実習 欠勤・遅刻・早退届

実習校担当教諭 _____ 先生

_____ 学部 _____ 学科 教科名 _____
氏 名 _____ 印 _____ 学籍番号 _____ 年次 _____
連絡先（携帯電話番号） _____
メールアドレス _____

----- 下記の通り、提出いたします -----

1 講義科目

教育実習

2 欠勤の期間 (自) 〇〇 年 月 日 ()

(至) 〇〇 年 月 日 ()

遅刻・早退の日時 (自) 〇〇 年 月 日 ()

時 分 (遅刻入室・早退)

3 理由（詳細、かつ具体的に書くこと）

4 提出先

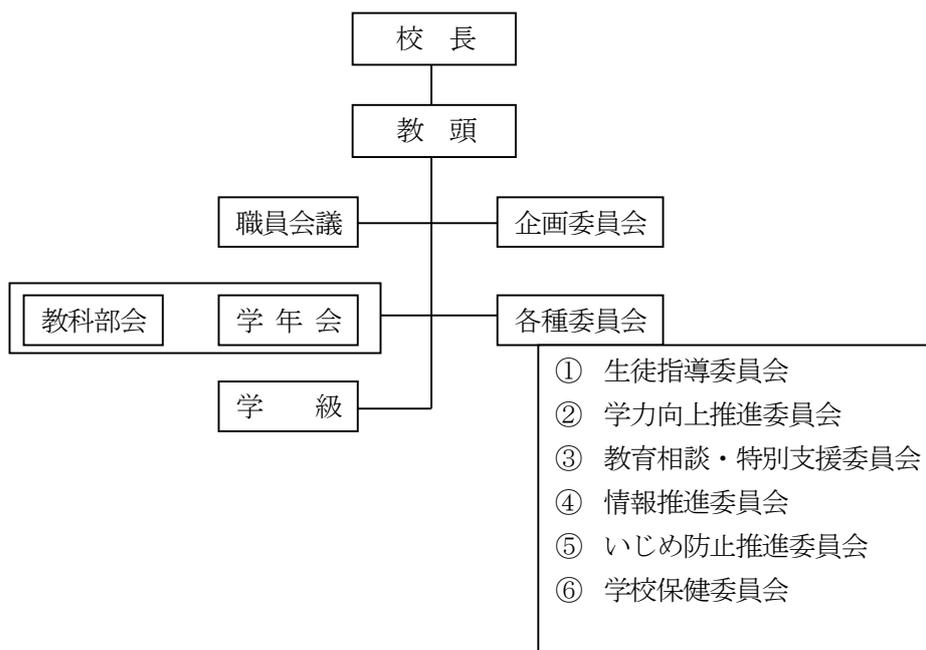
○ この届は、理由を明記して実習校の担当教諭、または教頭に提出すること。

※「教育実習の手引き」P4「7. 教育実習生の勤務」に従うこと。

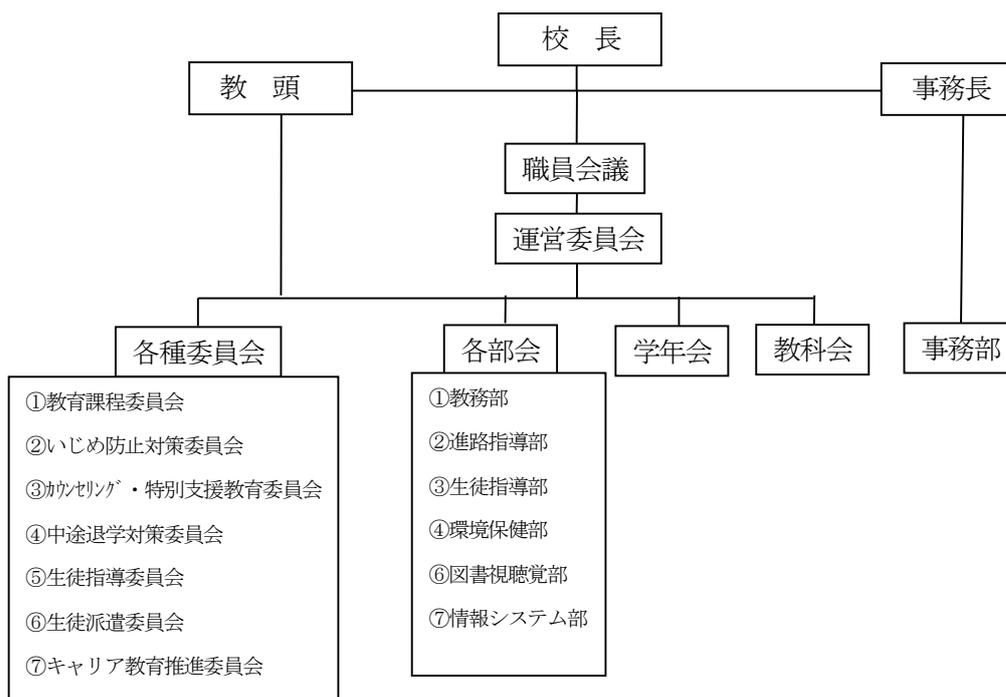
8. 学校の組織運営（校務分掌組織図）

学校の教育課程は学校長の指導監督の下に学級（HR）、学年会、生徒指導委員会、教科会、各種委員会活動などの校務分掌を基に運営されています。実際にはここで表記できない様々な校務分掌があり、それらが機能的に連携し運営されていることを実習校の校務分掌組織図を見ながら理解するようにしましょう。

<中学校の例>



<高校の例>



9. 教科指導

教育実習においては、教科指導についての取組が最も重要になります。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、教材研究を深め、学習評価を工夫した授業構成を考えていきましょう。

(1) 一人一人の生徒が楽しいと感じるような授業

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を目指す

下記の3つの学びを意識した授業改善に努める。

ア 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

イ 【対話的な学び】

生徒同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

ウ 【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につながる「深い学び」が実現できているか。

(参考：中央教育審議会教育課程部会高等学校部会、2016、「学習指導要領改訂の動向について」より)

② 学び合う場を設定する

授業のよさは、一人一人の学びを交流し合い、深め合うところにある。授業のなかで学び合う場を意図的・計画的に設定し、学び合いを行わせることが求められている。その活動を通して、授業（本時）の目標を達成することが重要になる。

(2) 教材研究の方法

① 教科内容について理解を深める

教科指導に当たっては、まず、教師自身が教科内容そのものについての幅広い知識を持ち、理解を深めておく必要がある。

② 教材のねらいを明らかにする

教材内容を分析・検討し、単元全体をつらぬく中心的なねらいと生徒に身に付けさせたい力を明確にする。また、それが教科目標や学習目標とどのように関連していくのかを明らかにする。

③ 生徒の実態を把握する

授業を行うにあたって、生徒一人一人はもちろん、学級によってもその実態は異なる。単元、本時を学ぶにあたって生徒のレディネス（興味・関心や意欲、教材に対する知識・技能、能力、学習上の課題、配慮事項等）についてしっかり把握し、実態に即した授業計画を立てることが重要である。

④ 指導計画を立てる

ア 指導の方法と順序を考える。

イ 1単位時間ごとの目標（本時のねらい）と学習内容を定める。

ウ その目標や内容に応じて、授業の組み立てや学習形態、発問・助言・指示・資料や教材・教具、

I C Tの活用、板書計画、ノート指導など、様々な指導の方法を考える。

指導方法の工夫として、次のことを考慮する。

・教師の指導と生徒の自主的な学習活動を適切に組み合わせ、体験的な学習活動を取り入れること

・ティーム・ティーチングなどの協力的な指導を取り入れること。

(3) 学習評価 (文部科学省, 2017, 「中学校学習指導要領解説総則編」より)

① 評価の目的

学習評価は、学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するものである。「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師の指導の改善を図ると共に、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことが重要である。

② 実際の評価

実際の評価においては、各教科等の目標の実現に向けた学習の状況を把握するために、指導内容や生徒の特性に応じて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の過程の適切な場面で評価を行う必要がある。その際には、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視することが大切である。特に、他者との比較ではなく生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることも重要である。

③ 評価の主体と対象

評価は教師による評価とともに、生徒による相互評価や自己評価等がある。相互評価や自己評価は、生徒自身の学習の向上にもつながることから重視する必要がある。また、学習評価を行っていくためには、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。

10. 教育実習中の心身の健康管理

教育実習は、限定された期間に集中して行われるので、各自の心身の健康管理には、普段より一層気をつける必要があります。

- (1) 食事・睡眠時間の確保など、規則正しい生活を心がける。
- (2) 教育実習の前後及び期間中は、授業の準備や振り返りに多くの時間を要するので、実習に専念できる環境を常に整えておく。
- (3) 実習中に困ったこと、不安なことが生じたら、実習校の担当教諭や学部の教育実習委員、ゼミの指導教員、年次指導教員あるいは教職センター教員などに気軽に相談をする。
- (4) 感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等）への対応については、次の通りとする。
 - ① 感染症の疑いがあるときは、直ちに学校に連絡し速やかに医療機関で受診する。
 - ② 診断結果が判明するまでは、自宅待機とし、外出はしない（実習校へは絶対に出勤しない）。
 - ③ 診断の結果、感染している場合には、自宅待機を継続し、治療に専念する。完治した後、速やかに出勤し実習を再開する。
 - ④ インフルエンザについては、P11の「インフルエンザ出勤停止期間早見表」を参照して、出勤可能日を確認し、P10の「インフルエンザ回復届出書」を欠勤届出等と併せて実習校の担当教諭へ提出する。
 - ⑤ 新型コロナウイルス感染症については、学部等から発出される対応に関する通知をその都度確認して、指示に従って行動する。※新型コロナウイルスやインフルエンザ以外（麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜ等）の感染症については病院からの完治証明書を添付する。



11. 教育実習中の危機管理

教育実習中は、心身の健康管理以外にも下記の危機管理に適切な対応をしましょう。

(1) 交通事故に対する対応

- ① 教育実習期間中に出退勤の際、交通事故に遭った場合には、速やかに実習校へ連絡し、その後の対応については学校の指示に従うこと。後日、実習校へ欠勤・遅刻届を提出すること。
- ② 人身事故の場合には、対応後、速やかに学部事務の学務係へも報告をすること。

(2) 台風等の自然災害に対する対応

- ① 台風の際、生徒は休校となるが学校職員は必ずしも休みとはならないので、出勤前に暴風警報が発令されていても次のことを確認し対応すること。
 - ・暴風警報が発令されていて、バスの運行が停止している場合は、業務停止となる（休み）。
 - ・暴風警報が発令されていても、バスが運行しているときは、原則勤務となるが、実習校の教頭または担当教諭に連絡を取り確認する。※事前に、台風の場合の勤務の取り扱い（業務停止や業務再開）については、必ず確認しておくこと。
- ② 地震等その他の自然災害については、実習校へ連絡し対応を確認すること。ただし、実習校と連絡が取れない場合は、大学の教育実習委員またはゼミの指導教員、あるいは年次指導教員のいずれかに連絡を取り対応を確認すること。

(3) 実習を続けていくことに不安を感じた場合

直ちに実習校へ体調不良のため欠勤する旨を伝え、次の手順に従って行動する。

- ① 学部の教育実習委員及びゼミ等の指導教員、年次指導教員あるいは教職センター教員のいずれかに連絡し、詳しく内容を伝え相談すること。
- ② ①の相談の結果、必要があれば、大学の他教員や保健管理センター、またはその他の機関に相談すること。

※ 誰にも連絡せず、黙って実習を欠勤する事がないようにする。

教育実習委員の連絡先	()
ゼミの指導教員の連絡先	()
年次指導教員の連絡先	()
学部の学務係の連絡先	()
琉球大学教職センター	098-895-8312
(教育学部教職係経由)	
琉球大学保健管理センター	098-895-8144

_____学校
校長_____殿

インフルエンザおよび新型コロナ回復届出書

1. 発症した日 令和 年 月 日 ()
2. 受診について
 - (1) 受診した日 令和 年 月 日 ()
 - (2) 医療機関名 ()
3. 診断結果 インフルエンザ A 型 ・ インフルエンザ B 型 ・ 新型コロナ
4. 解熱した日 令和 年 月 日 ()
5. 《出席停止期間中の体温測定結果》

	←最低限の出席停止期間→							
	発症日 (0日目)	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後 6日目	発症後 7日目
月日	/	/	/	/	/	/	/	/
朝 (時)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
夕 (時)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

【インフルエンザの場合】 発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過

【新型コロナの場合】 発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過
し、体調が回復したことを報告いたします。

令和 年 月 日

教育実習生氏名 _____ 印

《お願い》

- *インフルエンザの出席停止期間は「発症後5日を経過かつ解熱後2日経過するまで」、新型コロナの出席停止期間は「発症後5日を経過かつ症状が軽快した後1日を経過するまで」となっています。その期間は自宅で休養してください。
- *発症日は発熱した日とすることが多いですが、発熱以前に咳やのどの痛みなどの風邪症状が出ていた場合はかかりつけ医と相談してください。また、無症状の新型コロナ感染については検査日を発症日とします。
- *出席停止期間を経過しても体調がすぐれない場合は、出勤・受講等の再開を控えてください。
- *回復届は実習校担当教諭へ提出してください。

インフルエンザ出勤停止早見表

発熱期間	発症日 0日目	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後 6日目	発症後 7日目	発症後 8日目	発症後 9日目
1日							登校可能			
2日							登校可能			
3日							登校可能			
4日								登校可能		
5日									登校可能	
6日										登校可能



発熱



解熱

* 発症後3日目までに解熱したら、発症後6日目には出勤・受講が可能になります。

発症後4日目以降に解熱した場合は、解熱した日を0日目として、2日経ったあとに出勤・受講が可能になります。

新型コロナ出勤停止早見表

* 発症後4日目までに症状軽快したら、発症後6日目には出勤・受講が可能になります。

発熱期間	発症日 0日目	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後 6日目	発症後 7日目	発症後 8日目	発症後 9日目
1日							登校可能			
2日							登校可能			
3日							登校可能			
4日							登校可能			
5日								登校可能		
6日									登校可能	
7日										登校可能



発熱



症状軽快

発症後5日目以降に症状軽快した場合は、症状軽快した日を0日目として、1日経ったあとに出勤・受講が可能になります。

学校保健安全法施行規則に定められた学校感染症一覧

	感染症	出席停止期間の基準	特徴
第一種	エボラ熱、ペストなどの指定感染症	治癒するまで	発症はまれだが重大な感染症
第二種	インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで	飛沫・接触感染し流行拡大の恐れがある感染症
	新型コロナウイルス感染症	発症後5日を経過し、かつ症状軽快後1日を経過するまで	
	百日咳	特有の咳が消失するまで または5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで	
	麻疹(はしか)	解熱したあと3日を経過するまで	
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺の腫脹(腫れ)が発現した後5日を経過し、全身状態が良好になるまで	
	風疹(3日はしか)	発疹が消失するまで	
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化するまで	
	咽頭結膜熱(プール熱)	主症状が消退した後2日を経過するまで	
	結核	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで	
	髄膜炎菌性髄膜炎		
第三種	流行性角結膜炎、腸管出血性大腸菌感染症(O-157)、細菌性赤痢、溶連菌感染症、感染性胃腸炎など	病状により学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認めるまで	放置すれば流行拡大する可能性のある感染症

※症状により学校医その他の医師において伝染の恐れなしと認められた時はその限りでない

【参考】 琉球大学保健管理センターHP「学校感染症一覧」

12. 教育実習の中断における対応

実習を続けていくことが困難で中断に至った場合は、速やかに実習校へ辞退の連絡を行い、所定の手続きを行って下さい。具体的には以下の手順に従って下さい。

- (1) 実習校の教頭へ教育実習辞退の意思を伝える。その際、直接口頭で伝えることが望ましいが、実習校へ赴く事が困難な場合は必ず電話で連絡する。併せて、辞退届の提出は、後日、持参または郵送する旨を伝える。
- (2) 実習校へ辞退の連絡を行った後、速やかに学部の教育実習委員にも辞退の連絡を行う。
- (3) 学部事務室の学務係へ申し出て、所定の手続きを行う。
- (4) 手続きが完了したら、速やかに実習校へ辞退届を提出する（持参または郵送）。

13. 教育実習後の対応

- (1) 教育実習終了後 1 週間以内に、実習校の校長、担当教諭、生徒に対してお礼状を出すこと。
- (2) 教育実習終了後、速やかに学部の学務、実習担当教員、ゼミ担当教員、年次指導教員に実習終了の報告を行うこと。

14. 生徒理解

短期間の教育実習を充実したものにするためには、その期間でどれだけ生徒理解を深め、生徒との信頼関係を築くことができるかが重要です。成功体験を語るよりも、失敗体験をどのように克服したのか、あるいはなぜ克服できなかったのかを具体的に語る方が、実習生に対して生徒は、親近感を覚えます。

- (1) 授業を受け持つクラス全員の生徒の氏名をできるだけ覚えること。
- (2) 休み時間、昼食時間、清掃時間、放課後等において、積極的に生徒に話しかけること。
- (3) 学級担任（ホームルーム担任）をはじめ、教育相談担当、養護教諭、生徒指導主事、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等から生徒との関わり方や生徒指導のあり方等の話を聞くように心がけること。

15. 教育実習の形態

観察実習、参加実習、授業実習には、積極的に取り組みましょう。

(1) 観察実習

観察実習は、実習校の先生方の様々な教育活動を参観しながら、授業の進め方、板書の仕方、生徒に対する発問の仕方、授業における生徒と教師の双方向のコミュニケーションのあり方、授

業における生徒の様子，学校生活の様子，学習環境等の観察をとおして，生徒理解や授業実践力を高めることを目的としています。多くの教師の授業を積極的に観察しましょう。

(2) 参加実習

参加実習は，教科担任や学級担任，部活動顧問の指導のもとで，実際の様々な教育活動に参加したり手伝ったりしながら教師の仕事の内容を体験的に学び，生徒理解や授業実践力を高めることを目的としています。体験に勝るものはありません。積極的に参加しましょう。

(3) 授業実習

授業実習は，観察実習や参加実習の経験などを活かして作成した学習指導案を基に，実際に実習生が自ら担当教諭の指導の下で，教科指導（道徳を含む），特別活動等の授業を行うことを目的としています。授業を行うに当たっては，綿密に教材研究を行い，学習指導案を作成し，生徒一人一人の実態に沿った教材・教具及び発問等を工夫することが大切です。その際に，「わかる，できる，楽しい」と感じるような授業を目指すことが重要です。

実習生がよく「今日の授業は失敗だった」と言う場合があります。失敗ではなく「今日の授業はうまくいかなかった。うまくいかなかったところを改善さえすればいい」とリフレーミングするようにしましょう。

16. 観察実習の視点

実際に授業を観察するときは，観察者として何をどのように参観すればよいのかを事前に明らかにすることが重要です。下記の視点を参考に観察を行うことによって，授業実習をよりスムーズに行うことができます。

(1) 教員の働きかけ

- ① どのようにして生徒の学習意欲を喚起しているか。
- ② どのようにして生徒の思考を引き出し，授業に取り入れているか。
- ③ どのようなタイミングで机間指導を行っているのか。
- ④ 視線，声の大きさや抑揚等はどのようになされているか。

(2) 生徒の観察

- ① どのような場面において生徒は，積極的に授業に参加しているか。
- ② 授業に参加していない生徒は，どのような特徴が観られるか。
※その際，生徒の気持ちを共感的に理解することが大切である。

(3) 板書

- ① 生徒の理解につながる板書の工夫が行われているか。
- ② 生徒の思考に沿った板書の工夫が行われているか。

(4) 時間配分

導入，展開，まとめの一連の授業の流れにおける時間配分はどうなっているか。

※それを参考にして，指導案作成に活かすことが大切である。

(5) 教材・教具

生徒の学習意欲を高めるために，どのように教材・教具を工夫しているか。

※ 観察実習の記録について

観察実習後，すぐに，記録に取った授業の様子（授業者の発問や指示，生徒の反応，板書内容，時間配分等）をまとめることが大切です。そして，授業者にお礼を述べるようにし，その際に感想や疑問点があれば，教えを請うようにしましょう。

17. 授業設計の基本

生徒一人一人が、「今日の授業は楽しかった」と感じるような授業設計を行うことが最も大切です。その様な授業では生徒が，自分なりに「わかった」「できた」と感じるような授業の工夫がなされています。生徒一人一人の実態に寄り添った授業を行うように心がけることが大切です。

(1) 授業設計のポイント

授業の設計にあたっては，次のようなことを考えることが大切です。

- ① 本時の指導目標を明らかにし，何を理解させ，何ができるようになればいいのか，どのような力を育てようとしているのかを具体的に示すこと。
- ② 本時の授業において，どのような評価規準を作成すればよいか。
- ③ 生徒に課題意識を持たせるためには，どのような教材・教具を工夫すればよいか。
- ④ 生徒が，意欲的に活動するには，どのように学習過程や学習活動を工夫すればよいか。
- ⑤ 生徒の思考を助け促すために，どのように教材・教具や発問を工夫すればよいか。

18. 学習指導案の作成

学習指導案は学習の目的を達成するために、どのような教材や教具を用いて、どのように授業を進めるかを構想し、教員の働きかけや予想される生徒の反応等を記述するものです。授業を行う場合は、作成した学習指導案を前日までに担当教諭に提出し、指導を受けるようにしましょう。

(1) 学習指導案の項目と形式例

学習指導案の形式及び内容には定型はないが、一般的には学習指導要領に基づいて、以下に示す内容を記述します。

1 単元名

2 単元設定の理由

- (1) 教材観
- (2) 生徒観
- (3) 指導観

授業観察等で生徒の実態が十分に把握できない場合には、担当教諭や学級担任から生徒の実態に関する情報を収集して実態の把握に努め、簡潔に記述する。

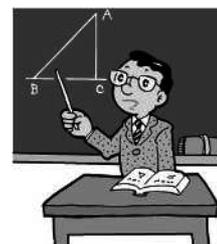
3 単元の目標

4 単元の評価規準

5 単元の指導計画と評価計画

6 本時の学習指導

- (1) 小単元名
- (2) 指導目標
- (3) 準備する教材・教具
- (4) 本時の展開
- (5) 板書計画



学習指導案の形式（例）

冒頭部分・・・学習指導案のタイトルと日時、場所、対象、授業者（担当教諭）などを記載する。

〇〇(科目名) 学習指導案

日 時：〇〇〇年〇月〇日 〇校時
場 所：沖縄県立〇〇高等学校 〇〇教室
対 象：〇年〇組 〇人
授 業 者： 〇〇 〇〇
担当教諭：教諭 〇〇 〇〇
教 科 書：

1 単元名

あるまとまりを持った教育内容の単位の名称を書く。

* 「単元」について、ひとつの完結性のあるまとまった学習経験を生徒に与える単位として、教科書の「章」や「節」を基準とする。

2 単元設定の理由

教材観・生徒観・指導観を柱とした「単元設定の理由」を中心にして、単元全体の指導計画を作

成する。

(1) 教材観

単元の目標を達成するために、扱う教材について、どのように理解し、価値づけているかを記述する。

- ポイント**
- 学習指導要領での目標と位置づけ（取りあげる教材の内容）
 - これまでに、この単元について、いつ、どのような内容で学んできたか（既習事項との関連）
 - これから先の学年でどのように扱われるのか（今後の展開）
 - この教材を取りあげる意義、生徒にとっての必要性、妥当性など

(2) 生徒観

授業する学級の生徒の様子や身に付いている既習事項等を記述する（生徒の実態と教育的配慮とを関連付けて）。

- ポイント**
- 単元に対しての生徒の実態
 - 既習事項の定着度
 - 生徒の興味・関心・意欲、教材に関する知識・技能の程度など

(3) 指導観

「教材観」「生徒観」を踏まえて、「生徒の実態に応じて、単元の内容をどう指導していくか」を記述する。

- ポイント**
- 指導や支援の力点
 - 指導の形態、生徒の能力を伸ばす工夫や手立て
 - その他配慮事項

3 単元の目標

学習指導要領に示された単元の目標および内容を踏まえ、それに照らし合わせた生徒の実態や教材の意味などを考慮しながら、全体を見とおした総括的な目標を設定する。【指導者の視点】

- ポイント** 単元設定の理由のうち、特に「指導観」を端的な目標的記述でまとめ直したもの。

4 単元の評価規準

国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料が示す書式に倣い、「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」を表記する。

(例) 物理基礎「物体の運動とエネルギー」の評価規準に盛り込むべき事項

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 単元の指導計画と評価計画

国立教育政策研究所が示す書式に倣い、各時間における具体的な評価規準を表記する欄を設ける。

単元の総括の資料とする場合は◎，しない場合は○とする。

(例) 単元名「波」

◎指導に活かすとともに総括に用いる評価

○指導に活かす

評価

過程	時間	学習内容	学習活動	本時の目標	評価の観点			評価規準	評価方法
					知	思	態		
	1	波の現象	・身近な波動現象の例を想起する。 ・波動実験とばねによる波を観察する。 ・波の移動と振動の様子を作図する。	・身近な波の現象に関心を持ち、波の伝わり方について理解することができる。			○	身近な波に関する現象に主体的に関わろうとしている。 波の伝わり方についての知識を身に付けている。	行動観察 ワークシート記述内容の分析
	2	波の伝わり方、波の要素	・波の伝わり方を作図する。 ・波の要素を考察する。	・波の要素及びそれらの関係を見だし、振動のグラフ(y-tグラフ)や波形のグラフ(y-xグラフ)を適切に作図することができる。		◎		波の要素及びその関係を見だし、振動のグラフ、波形のグラフを適切にかき、科学的に判断し表現している。	ワークシートの記述内容の分析

【生徒の立場】

【生徒の立場】

【生徒の立場】

◎印の付いた評価規準：評価規準に照らして、「十分満足できる」状況(A)か、「おおむね満足できる」状況(B)か「努力を要する」状況(C)かを把握し、単元の総括の資料とする。

○印の付いた評価規準：評価規準に照らして、「おおむね満足できる」状況(B)であるかどうかを中心に把握する。「努力を要する」状況(C)になりそうな生徒に対して、適切な働きかけや指導の手立てを行うことを特に重視したもので、単元の総括の資料とはしない。

*毎時の観点の評価は1～2程度に絞る

*必要ならば「使用する教材・教具の欄を設けてもよい。
(評価方法の欄に工夫して記載してもよい)

<参考> 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所

「評価規準に盛り込むべき事項」は、新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、「改善通知」で示されている各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、科目の評価の観点を趣旨を作成し、これらを基に内容のまとまりごとに作成している。

「評価規準の設定例」は、「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものであり、原則として、新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容のほか、当該部分の学習指導要領解説(文部科学省刊行)の記述を基に作成している。

なお、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」は、評価の観点別に「おおむね満足できる」状況を示すものである。したがって、この状況を実現していれば「おおむね満足できる」状況であり、実現していなければ「努力を要する」状況となる。さらに、「おおむね満足できる」状況と判断される生徒の学習状況について、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるとき、「十分満足できる」状況という評価になる。

6 本時の学習指導

(1) 小単元名

指導計画で明示した小単元の名称や本時の主題を書く。

(2) 指導目標

単元の指導計画に基づき、本時の学習活動の目標を具体的に示す。 【生徒の立場】

*評価規準との整合を図る。

*本時の評価規準、評価方法、支援の具体的方法は本時の展開に示す。

*本時の評価規準の表は仮説の検証上どうしても必要であれば示す。ただし、単元の評価計画、本時の指導案と内容が重複するので気をつける。

【評価の観点】 評価規準	判定の基準			評価方法
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援の具体的方法	

(3) 準備する教材・教具

本時で使用する教材や教具を具体的に記載する。

(4) 本時の展開

本時の学習指導展開について、生徒の活動、教師の指導・支援、留意事項、観点別評価、時間の配分などを時系列で表示する。

- ①学習指導過程・・・ 導入 → 展開 → 終末（まとめ）
 （プレテスト、課題提示） （実験前説、実験・測定、法則性） （ポストテスト等）
- ②生徒の活動・・・生徒の学習活動を生徒主体で書く。「～を行う」「～を発表する」など
- ③教師の活動・・・教師の指導過程を教師主体で書く。「～を示す」「～を問う」など
 また、生徒への支援や指導の留意等を書く。
- ④学習形態・・・一斉、グループ、ペア、個人など
- ⑤準備・備考・・・学習活動に必要な教材やワークシート、授業における留意点等などを書く。
- ⑥評価・・・設定した観点別評価の規準とその評価方法を授業の流れに沿って明示する。

*本時の展開（書式例）

過程	生徒の活動 (学習活動)	教師の指導・支援	形態	準備・備考	評価規準・方法
（導入分）	本時の目標・ねらい 活動目標 問題提起 など				

展開 (分)	～を記入する ～を調べる ～を確かめる ～を考える ～について話し合う ～を発表する ～を知る ～を気づく ～をまとめる	○学習過程に沿って、指導支援の意図、工夫手立てなどについて具体的に書く ○学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く ○教材・教具・資料提示の機会や方法 ○発問の内容や方法 ○予想される生徒の反応 ○「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への具体的な支援方法 ○「十分に満足できる」状況（A）となるようにするための手立ての例を記す	一斉 グループ ペア 個人		＊具体的な評価規準・評価方法を書く ＊「B 概ね満足できる」と「A 十分に満足できる」の両方の評価規準を示すこと ＊評価の観点を踏まえて書く ＊単元の評価計画や本時の目標と対応させる
まとめ (分)	まとめ・振り返り など				

(5) 板書計画

板書は学習内容と学習過程の明確化、学習内容の振り返り・まとめなど、生徒にとって重要な学習活動の材料である。授業を計画するとき、板書をどうするかも考え、板書イメージを練ることが大切である。

【板書を行う際の留意点】

- ①誤字・脱字に気をつける
- ②白一色でなく、黄・赤・青を有効に使用し、授業内容のポイントが分かりやすいように色彩よく板書する。（学校によっては「めあて」と「まとめ」は赤色で囲むなど、共通実践を進めている場合があるので、確認をして、それに従うこと）
- ③授業のプロセス、学習内容のポイント、効果などが整然と板書され、一目瞭然に分かるように工夫する。
- ④板書したものは、頻繁に消したりしないようにする。消す場合は、生徒の理解状況やノートへの書き取り状況を良く理解してから行うこと。

<参考資料>

国立教育政策研究所 課題研究センター(2011,2012)『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』

岡山県総合教育センター(2013)『授業づくりの基礎・基本—学校全体で授業改善に取り組むために—』

岡山県総合教育センター 学習指導案の形式（例）

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/sidoan/index.htm>

19. 授業研究会

実習生は、教育実習期間中に研究授業を行わなければなりません。研究授業は、授業の質の向上を目的として行われるもので、実習生は事前に告知した授業実習を実習校の教員、大学の実習担当教員や所属ゼミの教員などの参観者に公開します。研究授業後には、授業研究会が開催され、実習生自身の授業リフレクションや、参観者による指導・助言が行われます。

- (1) 研究授業の開催日を、実習校の指導教員と話し合い、早い段階で決める。
- (2) 大学の教育実習担当及び所属ゼミの教員に研究授業の日程を連絡し、参観及び指導助言を依頼する。
- (3) 授業研究会で指摘されたことを謙虚に受け止め、残りの教育実習に活かすようにする。
- (4) 授業研究会における反省点や指導助言に関しては、実習記録簿にまとめておく。

20. 教育実習記録簿の記入上の留意点

実習期間中の日々の記録は、「実習事項・内容」と「所感・反省」に分けられます。

(1) 記入内容の例

- ① 観察実習・参加実習についての感想を書く。
- ② 教材研究、指導案作成について指導を受けたこと等を書く。
- ③ 授業実習についての反省、評価に対して指導を受けたことを書く。
- ④ 学級の生徒についての観察事項や感じたことを書く。
- ⑤ 生徒指導等、学級活動上の指導とその反省を書く。
- ⑥ 学校行事において、印象深かった事項の感想を書く。



(2) 記入方法・留意点

- ① 一つか二つかの事項に絞って具体的に書く。
- ② 記入する際は、字を丁寧に書くことを心がけ、鉛筆で下書きの上、黒のボールペンでなぞり、下書きを消して提出する。
- ③ 誤字・脱字・送り仮名等には留意し、特に略字は書かないようにする。
- ④ 論文体と話し言葉を混用せず、文体を統一する。また、俗語・絵文字・顔文字等のような表現は使わない。

※ 担当教諭の押印漏れがないかを確認する。

◎ 教育実習記録簿記入例

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4 — 3 — 2 — 1 とても悪い
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容		
始 業 前	例) 朝のホームルームの様子を観察した。		
1	3年1組 国語 観察実習	「文章の形態を選択して書くには」の授業を参観した。	
2	数学の教材研究	三平方の定理を説明するためのワークシートの準備・印刷	
3	3年1組 数学 授業実習	図形を使って「三平方の定理」を証明する。	
4	数学の教材研究	3年1組で行った授業の反省と3年3組の授業実習の準備	
昼食・清掃 休憩	昼食は3年1組で取った。清掃は教室を手伝った。		
5	3年3組 数学 授業実習	図形を使って「三平方の定理」を証明する。	
6	数学の教材研究	「三平方の定理が成り立つ三角形はどんな三角形か」の授業の準備	
7	授業リフレクション	担当教諭と今日の授業のリフレクションを行った。	
放 課 後	部活動参加 参加実習	野球部の顧問の指導の下で、練習に参加し生徒に守備練習の指導を行った。	

所 感 ・ 反 省	<p>※「教育実習の手引き」の20.「教育実習記録簿の記入上の留意点」の記 内容の例を踏まえて記入する。</p> <p>① 観察実習、参加実習についての感想を書く。</p> <p>② 教材研究、指導案作成について指導を受けたこと等を書く。</p> <p>③ 授業実習についての反省、評価に対して指導を受けたことを書く。</p> <p>④ 学級の生徒についての観察事項や感じたことを書く。</p> <p>⑤ 生徒指導等、学級活動上の指導とその反省を書く。</p> <p>⑥ 学校行事において、印象深かった事項の感想を書く。</p>		

※所感・反省は10行以上書くこと

授業実習実施時間	2時間	観察実習実施時間	1時間	参加実習実施時間	1時間
----------	-----	----------	-----	----------	-----

担当教諭の 所 見	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 担当教諭の押印漏れがないかを確認 </div>	
--------------	--	---

各教科における学習指導案 〈高等学校を参考に〉

◆ 国語

◆ 地理総合

◆ 数学

◆ 外国語

◆ 理科（生物）

◆ 農業

※ 沖縄県立総合教育センター資料より
〈平成30年改訂学習指導要領に基づく〉

高等学校国語科学習指導案

学校名：〇〇県立〇〇高等学校
日 時：令和〇年〇月〇日
実施クラス： 〇年〇組
授業者：〇〇 〇〇

1. 単元名

『論語』の読解を通して、人間の生き方、物の考え方について考察しよう。

2. 単元目標（単元を通して育成したい資質・能力）

漢文『論語』を読み、孔子の考え方を理解することで、生徒の視野を広げ、文章にしたり発表したりして、ものの見方・考え方を深める。孔子の思想が、現代においてどのような意味を持っているのか考察する。

(1) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めることができる。

【「言語文化」2 内容〔知識及び技能〕(2)ウ】

(2) 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化についての自分の考えをもつことができる。

【「言語文化」2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕B 読むこと(1)オ】

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

【（「言語文化」「学びに向かう力、人間性等」）】

3. 本単元における言語活動と教材

言語活動：古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。

【「言語文化」2 内容〔思考力、判断力、表現力等〕B 読むこと (2) オ】

教材：『論語』（第一学習社「標準国語総合」）

4. 単元について

(1) 生徒観

学習意欲があり、コツコツと努力を重ねることができる生徒たちである。授業においてはやや受け身な面があり、質問には答えるが、考えて答えることに消極的である。一学期、「故事成語」を学習し、漢文訓読に親しんだ。書き下し文、句法などの基礎固めを図るが、定期テストの結果、四分の一の生徒が不正解だった。『論語』を学習する中で、書き下し文、句法、重要語句、口語訳、内容を理解する力を身に付けさせたい。また、内容に対して興味を持たせ、自分の意見や考えを述べる力を身に付けさせたい。グループ活動の中で他者の意見に共感し、自分の生活などに生かそうとする態度を養い、人間関係や視野を広げるきっかけとしたい。

(2) 教材観

『論語』は多くの弟子たちを教え導いた孔子の思想を伝える言行録である。孔子の人間の生き方に対する鋭い観察や深い思索に触れ、現代の自分たちの生活と比べることによって、その言葉を実

感としてとらえることができるであろう。

(3) 指導観

教科書で学んだ『論語』の他に、インターネットで他の『論語』名言を調べさせる。その中から、特に印象に残った『論語』を選び、自分の体験と関連付けながら、自分の考えをしっかりと持たせた上で文章にまとめさせる。また、自らの意見や考えをグループ内で発表し、意見・感想を交わすことで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、現代社会に通ずる孔子の考え方について、自分の考えを持たせていきたい。

5. 学校全体を通して育成したい資質・能力

○	知力・学力	○	自己理解力	○	課題発見力		情報活用力		課題解決力
○	発信力		主体的行動力		主体的継続力	○	協働力		郷土理解

6. 単元目標に迫る問い

『論語』の言葉は、現代にどのように生きているか。

7. 単元の評価規準（評価の観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古典を読むために必要な文語の決まりや訓読の決まりについて理解を深めている。(2)ウ)	・読むことにおいて、論語の内容や解釈を踏まえ、孔子のものの見方や考え方について、自らの知識や体験と関連づけながら自分の考えを持っている。(B(1)オ)	・学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめたり発表したりすることを通して、進んで論語に表れている孔子のものの見方や考え方について知識や体験を関連づけて自分の意見を持つようとしている。

8. 単元の指導と評価計画（全8時間計画）

◎＝記録に残す評価 ○＝指導に生かす評価

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準			評価方法
			知	思	態	
1	・単元の見直しを持つ。 ・教科書・国語便覧をもとに諸子百家の思想を比較する。 ・孔子の人物像、『論語』という書物について確認する。	・教科書、国語便覧を参照し、講師について理解を深める。	○			○ [知識・技能] 「記述の確認」ワークシート
2	・本文「学問」を読み味わう。 ・孔子の理想とする人間像について理解を深める。	・課題ワークシートをペアで確認する。 ・本文の読み、語句の意味、口語訳を確認する。	◎			◎ [知識・技能] 「記述の確認」ワークシート
3	・本文「学問」を読み味わう。 ・孔子の学問に対する態度について理解を深める。 ・振り返りシートに単元を通して得た学びなどについて記述する。	・孔子が理想とする学ぶ者の姿勢とはどのようなものか理解させる。	◎	○		◎ [知識・技能] 「記述の確認」ワークシート ○ [思・判・表] 「記述の分析」振り返りシート

4	<ul style="list-style-type: none"> ・「仁」の概略について確認する。 ・本文「仁」を読み味わう。 ・「仁」とはどのようなものかまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の読み、語句の意味、口語訳を確認する。 	◎			◎ [知識・技能] 「記述の確認」ワークシート	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・本文「仁」を読み味わう。 ・「仁」に至るための方法をまとめる。 ・振り返りシートに単元を通して得た学びなどについて記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仁とは何か、自分の考えを深めさせる。 	◎	○		◎ [知識・技能] 「記述の確認」ワークシート ○ [思・判・表] 「記述の分析」振り返りシート	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・政治・思想について確認する。 ・本文「政治」を読み味わう。 ・政治の根本についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・孔子は政治には何が大切だと考えていたか、意見をまとめさせる。 	◎			◎ [知識・技能] 「記述の確認」ワークシート	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にはない他の『論語』について、インターネットで調べる。 ・キーワード「論語」「名言」で検索する。 ・自身の体験と結びつく『論語』を選び、「○○が選ぶ論語」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“○○が選ぶ論語”を作成することを伝える。例を提示する。 ・『論語』について興味を持たせる。 ・自分の体験と関連づけて考えるようにする。 		◎	○	◎ [思考・判断・表現] 「記述の点検」ワークシート ○ [主体的に学習に取り組む態度] 「行動の観察」	
<p>【Cの生徒への配慮】教科書の章句やインターネットで「論語」「名言」と検索した中に書かれてある訳を読んで、特に共感した言葉は何か選んでもらう。共感した点を箇条書きでもいいから書くように促す。</p>							
8	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、各自の体験・考えを発表し、相手の発表を聞く。 ・発表を聞いて共感した点、疑問に思った点をまとめグループ内で共有する。 ・各グループ発表を聞いた中で特に印象に残った言葉を模造紙にまとめる。全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の考えを聞き、自分の考えを振り返る。 ・現代社会に通ずる孔子の考え方についてまとめさせる。 			○	◎	○ [思考・判断・表現] 「記述の点検」模造紙 ◎ [主体的に学習に取り組む態度] 「記述の確認」「行動の観察」ワークシート、付箋紙
<p>【Cの生徒への配慮】グループ内で発表するとき、文を見ながら発表しても良いと伝える。相手に聞こえるようにゆっくり話すことを意識させる。模造紙に書く際、グループで協力して書くように促す。</p>							

9. 本時の計画

(1) 本時の目標

印象に残った『論語』を自分の体験と関連づけ文にまとめたものを発表し、意見を交わすことで、古典を身近に感じ、自分の思いや考えを深めていこうとしている。

(2) 本時の展開（8時間目／8時間配当）

	学習活動	留意点	形態	評価規準・評価方法等
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返る。 ・発表の準備を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四人程度のグループに分かれる。 	個人	

展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、各自の体験・考えを発表し、相手の発表を聞く。 ・発表を聞いて共感した点、疑問に思った点をまとめグループ内で共有する。 ・グループ内で印象に残った言葉をもとに現代に通ずる孔子の考えをまとめ、模造紙に書き出し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で発表を行う。 ・発表を聞いた後、共感した点や疑問点を述べてもらい付箋紙にコメントを書かせる。 ・現代社会に通ずる孔子の考えを見いだすよう促す。 	<p>グループ 個人</p> <p>グループ 全体</p>	<p>【評価規準】(態) 論語の内容と自分の身の回りの出来事を結びつけ、自分の意見を発表しようとしている。</p> <p>【評価方法】 「記述の確認」「行動の観察」ワークシート、付箋紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章が書けているか。 ・グループ内で協力して発表を行っているか。
	<p>【概ね満足できる状況(B)】自分の体験談を発表するとき、グループ全員が発表できている。発表した人に対し、各々が一つ以上コメントを書いている。グループ内で印象に残った言葉を、模造紙に箇条書きに書き出している。</p> <p>【Cの生徒への配慮】グループ内で発表するとき、文を見ながら発表しても良いと伝える。相手に聞こえるようにゆっくり話すことを意識させる。模造紙に書く際、グループで協力して書くように促す。</p>			
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シート及び個人の日々の振り返りシートの記入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りをさせる。 	個人	

高等学校地理歴史科（地理総合） 学習指導案

学 校：〇〇県立〇〇高等学校〇〇科
 日 時：令和〇年〇月〇日（金）〇校時
 場 所：〇年〇組HR室
 学 年：〇年〇組（〇名）
 授業者：教諭 〇〇 〇〇〇 印

1. 単元名

- (1) 教科書『高等学校地理総合 〇〇〇』（〇〇社）
 第2編 国際理解と国際協力
 第2章 地球的課題と国際協力
 第5節 平和で公正な社会に向けて
 本時の題材名 「国際協力とパートナーシップ」（P〇～〇）
- (2) 資料集『〇〇 〇〇〇〇』（〇〇書院）

2. 単元の目標（単元を通して育成したい資質・能力）

学習指導要領	大項目	B 国際理解と国際協力
における位置づけ	中項目	「(2) 地球的課題と国際協力」より、アの(イ)、イの(ア)

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解すること。	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食糧問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	地球的課題と国際協力について、自らの課題として捉え他者と協働しながらよりよい社会の実現に向けた意識を高め自分にできることを主体的に追究しようとする態度を養う。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食糧問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	地球的課題と国際協力について、自らの課題として捉え他者と協働しながらよりよい社会の実現に向けた意識を高め自分にできることを主体的に追究しようとしている。

4. 単元の主な評価方法（●=学習改善につなげる評価、○=評定に用いる評価、そのうち◎=ペーパーテストで見取る評価）

知	二学期中間考査（◎）
思	毎時のワークシートや単元リフレクションシートへの記入内容等（○）、授業中の協働活動の取組み等（●）を元に評価する。
態	

5. 学校全体を通して育成したい資質・能力

<input type="radio"/>	知力・学力		課題発見能力		自己理解力	<input type="radio"/>	情報活用力
	課題解決力	<input type="radio"/>	協働力	<input type="radio"/>	主体的継続力		発信力

6. 単元について

(1) 教材観

本単元は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界各地で見られる地球的課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地球的課題の傾向性や課題相互の関連性を大観し、課題解決を目指した各国の取り組みや国際協力の必要性などを理解できるようにすることが求められている。またこれらを踏まえ、今後よりよい社会の実現のために、世界各地で見られる地球的課題を自分事として捉え、その解決のために自分に何ができるかということを追究させることで「持続可能な社会の担い手」としての意識を高めることができる単元である。

(2) 生徒観

対象クラス生徒は文系クラスであり、出席状況及び授業に挑む姿勢も良好である。地理に対する興味関心も高く理解力もある。特に、本単元の学習については、他教科等でも触れているSDGsと関連が深く、ある程度の理解は事前に身に付いている。一方で、授業中の発言は特定の生徒に限られ、自分の考えを、根拠を基に文章化したり発表したりすることに対しては苦手意識を持っている生徒もいる。また、地理学習を「暗記科目」として認識している側面も強く、理解していることの中から疑問を見出し、自分自身にできることを追究する思考には至っていない生徒が多い。

(3) 指導観

世界各地で見られる地球的課題への理解を深めさせた後、各国、そして自分自身は「今後どのような取組をすべきなのだろうか」「国際協力で大切なことは何か」といった問いを立てることでより主体的・発展的な学習をめざしたい。その問いに迫るために、様々な図画資料や表・グラフにフォトランゲージ等のアクティビティを仕掛け、ペアやグループによる話し合いを充実させることで、生徒の好奇心をさらに掻き立てたい。このような活動を通して、生徒たちは自分の考えを構成し、他者と比較・共有することで新たな価値に気付きながら問いに迫っていけるのではないかと考える。基礎的知識の定着のみならず、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、説明したり、議論したりすることで持続可能な社会の担い手としての意識を高めたいと考える。

「主体的・対話的で深い学び」への工夫

①主体的になるために

「単元を貫く問い(FQ)」とそれに迫るための「本時の問い」を設定し、単元ワークシートから適当な語句を選び、その選んだ根拠をR80で記入させることを通して、振り返って次につなげながらFQへの自己の考えを追究させる。

②対話的になるために

フォトランゲージやカードワーク等のアクティビティを取り入れた資料の読解をペアやグループといった協働で行わせることで共に考えを創り上げさせる。

③深い学びになるために

個人→ペア→グループ→全体というプロセスを適宜取り入れることで、他者の意見を踏まえて自分の考えを深め新たな価値を構成させる。

7. 単元を貫く問い（FQ）

「国際協力で大切なことは何か」

8. 単元の指導と評価の計画（●＝学習改善につなげる評価、○＝評定に用いる評価）

時	学習項目 ★学習内容	学習活動 〈 〉＝アクティビティ名（BS＝ブレインストーミングのこと）	評価の観点		
			知	思	態
1	FQを考えよう ★国際社会の課題と自分とのつながりを考察し、関心を高める。	①協働学習のルールを肯定的な言葉で考えその意義を共有する。 ②開発途上国の人口、場所を地図で確認する。〈クイズ〉 ③「子供兵士」の写真を見て自分との関わりを考える。〈フォトランゲージ〉 ④スマホの生産工程を考察し「物のグローバル化」を理解する。〈カードワーク〉 ⑤外国人労働者の実態から「人のグローバル化」を理解する。〈看図アプローチ〉 ⑥上記④⑤より、国際社会の課題を見つけ自分事化することの大切さを考える。 ⑦単元を貫く問い（FQ）「国際協力で大切なことは何か」を設定する。			●
2	沖縄×SDGs ★本県の国際協力の展開方向を考察する。	①事前アンケート「国際協力に対するイメージ」等を共有する。 ②前時の振り返りや①から本時の問い（MQ）を設定する。 【MQ】「沖縄県の国際協力はどのように進められているのだろうか」 ③SDGsの成立背景や17ゴールについて理解する。〈カードワーク〉 ④日本や沖縄県のSDGsへの取り組みや現状を理解する。 ⑤「沖縄21世紀ビジョン」について理解する。〈カードワーク〉 ⑥ビジョンIVに注目し、SDGsとの関連を考える。〈カードワーク〉 ⑦MQについて単元リフレクションシート（TRS）を記入する。			●
3	沖縄×平和 ★もしも学芸員だったらどのような平和博物館を創るか考察し、その態度を身に付けようとする。	①前時の振り返り（ビジョンIV×SDGs）から本時の問い（MQ）を設定する。 【MQ】「沖縄の強みを生かす国際協力とはどのようなものか」 ②「平和教育」と聞いてイメージすることを共有する。〈BS〉 ③平和博物館づくりを要請してきたC国のできごと（シナリオ）を読む。 ④C国にどのような平和博物館が作れるかアイデアを出し共有する。〈BS〉 ⑤実際の支援の様子を写真から考察する。〈フォトランゲージ〉 ⑥現在のC国の写真を見ながらC国がどこか考察する。 ⑦なぜこのような支援が行えたか世界中の平和博物館数を踏まえて考察する。 ⑧MQについてTRSを記入する。			●
4	★沖縄×環境 もしも水道技術者だったらどのように支援を行うか考察し、その態度を身に付けようとする。	①前時のリフレクションシートに記載された新たな問いを本時の問い（MQ）として設定する（この時間の本時の問いはEQと同じである）。 【MQ】「国際協力で大切なことは何か」 ②宮古島の水変遷の歴史を考察する。〈フォトランゲージ〉 ③生物浄化法（緩速濾過法）と急速濾過法を知る。〈クイズ〉 ④S国の人の立場になってS国の水事情を考察する。〈ロールプレイ〉 ⑤S国にどのような水環境支援ができるかを考察する。〈BS〉 ⑥S国における支援と関連するSDGsを考察し選ぶ。 ⑦FQについてTRSを記入し全体共有する。			●

9. 本時の学習指導（3／4時間）

(1) 本時の題材：「沖縄×平和」

(2) 本時の問い（MQ）：「沖縄の強みを生かす国際協力とは、どのようなものだろうか」

(3) 本時の目標：

沖縄県内の学芸員という立場に立って、海外における平和博物館づくりを協働しながら考察・構想させることで、平素の「平和教育」が沖縄の強みであり国際協力の一つになるということへの関心を高めさせ、平和な社会をつくる担い手として何ができるかということを主体的に追究させる。

(4) 本時の評価基準（ルーブリック）

評	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	どのような平和博物館が作れるか、資料（シナリオ）から展示物や展示方法を多面的・多角的に考察・構想し、その結果を適切に説明や議論しながら表現している。	沖縄の強みを活かす国際協力について協働して考察することを通して関心を高め、自分自身にできることを主体的に追究しようとしている。
B	どのような平和博物館が作れるか、資料（シナリオ）から展示物や展示方法を多面的・多角的に考察・構想し、その結果を説明や議論しながら表現している。	沖縄の強みを活かす国際協力について協働して考察することを通して関心を高め、自分自身にできることを追究しようとしている。
C	どのような平和博物館が作れるか、資料（シナリオ）から展示物や展示方法を多面的・多角的に考察・構想し、その結果を説明や議論しながら表現しようとしている。	沖縄の強みを活かす国際協力について考察することを通して関心を高め、自分自身にできることを追究しようとしている。

(5) 本時の評価方法（○評価について）

単元リフレクションシートへの記入文を本時のルーブリックに取らし合わせて【思】と【態】を見取る。

(6) 本時の展開と評価の計画（Ⅰ＝導入8分、Ⅱ＝展開30分、Ⅲ＝まとめ・振り返り12分）

時	学習内容 〈〉＝アクティビティ名、★＝指導上の留意点等	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
Ⅰ	①前時の振り返りからMQを設定する。 【MQ】「沖縄の強みを生かす国際協力とはどのようなものか」			●	前時の振り返りを通してMQや追究の見通しをもとうとしている。
	②「平和教育」と聞いてイメージすることを共有する。 〈ブレインストーミング〉 ★BSのやり方・留意点を説明する。		●		「平和教育」から連想される事柄や気持ち等を多面的・多角的に考察している。
Ⅱ	③平和博物館づくりを要請してきたC国のできごと＝シナリオを読む。	●			シナリオから情報を読み取り、C国のできごとを理解している。
	④C国に対して、学芸員という立場に立って、何をどのように展示した平和博物館が作れると思うかアイデアを出し合い共有する。〈ブレインストーミング〉 ★個人→ペア→全体共有と段階的に可視化する。		●		上記③を元に展示物や展示方法を多面的・多角的に考察し、共有することで更なるアイデアを見出し出している。
	⑤実際の支援の様子を写真から考察し共有する。 〈フォトランゲージ〉 ★写真を各グループに配布した後、フォトランゲージのやり方・留意点を説明する。グループ→全体と可視化する。		●		写真資料から協働しながら情報を読み取り、実際の支援の様子を多面的・多角的に考察している。
	⑥現在のC国の写真を見ながらC国がどこか考察する。 ★スライドでC国の文化や首都の様子を示す。		●		これまでの学習も踏まえ、C国がどの国かを考えている。
Ⅲ	⑦なぜ沖縄からこのような支援が行えたか、世界や日本の平和博物館数を踏まえて考察する。 ★沖縄の強みと言える平素の平和教育が国際支援にもつながるといふことに気付かせ、自分たちがその担い手であるという意識を高めさせる。		●		平和博物館数を踏まえ、平和教育の可能性について多面的・多角的に考察している。
	⑧MQについて単元リフレクションシートを記入する。		○	○	沖縄だからこそできる国際支援について多面的・多角的に考察し、学んだことを社会生活に生かそうとしている。

高等学校数学科学習指導案

学 校 名：〇〇県立〇〇高等学校
氏 名：〇〇〇〇
日 時：令和〇年〇月〇日
実施クラス：〇年〇組
使用教科書：数学 I

1. 単元名 5章 データの分析

2. 単元目標

- (1) データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) データ分析のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3. 単元について

(1) 生徒観

発言力のある生徒がいるため、授業の雰囲気は比較的活発である。また、個々でしっかり考えたり、お互いで教えあったりしながら問題に取り組む様子も見られる。教科書を自分で読み進めて練習問題に取り組む生徒がいる一方で、基本的な計算力などが身につけておらず数学に苦手意識をもっている生徒もいるので、単元によっては中学校の内容を確認しながら丁寧に進めていく必要がある。

(2) 教材観

データの分析は、身近なデータや実験結果をもとに考察ができるため、具体的にイメージして取り組みやすい単元である。ヒストグラム、代表値、四分位数、箱ひげ図、標準偏差、相関係数などを用いてデータを整理・分析し、事象の関係を多様な方法で表現することによって、数学的な見方や考え方のよさを実感することができる題材である。

(3) 指導観

本単元は高校数学の中でも日常生活で用いる可能性が高い分野である。データの見方、分析の仕方については様々な解法を紹介して、「知識・技能」を増やすだけでなく身近にある実際のデータを用いて分析を行うことで、それらの必要性や有用性を感じさせるような指導を心がける。

4. 学校全体を通して育成したい資質・能力

様々な情報を活用する力や自ら課題を発見する力を身につけ、他者と協働して自己実現に向けて粘り強く取り組む態度を育成する。

5. 単元を通して育成したい資質・能力

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ●分散, 標準偏差, 散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解すること。 ●コンピュータなどの情報機器を用いるなどして, データを表やグラフに整理したり, 分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすること。 ●具体的な事象において仮説検定の考え方を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察すること。 ●目的に応じて複数の種類のデータを収集し, 適切な統計量やグラフ, 手法などを選択して分析を行い, データの傾向を把握して事象の特徴を表現すること。 ●不確実な事象の起こりやすさに着目し, 主張の妥当性について, 実験などを通して判断したり, 批判的に考察したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●数学のよさを認識し, 積極的に数学を活用しようとする態度。 ●粘り強く柔軟に考え, 数学的論拠に基づいて判断しようとする態度。 ●問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ●度数分布表やヒストグラムでデータを整理することができる。 ●データの代表値として, 平均値, 中央値, 最頻値を理解している。 ●分散, 標準偏差を求め, データの散らばり具合を調べることができる。 ●データを散布図で表すとともに, 相関係数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●データの分布の特徴を度数分布表やヒストグラム, 箱ひげ図を用いて考察できる。 ●代表値, 四分位数, 分散, 標準偏差など, データの特徴を数値で表すことの有用性について考察できる。 ●散布図と相関係数を用いて, データの相関関係を考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●データを理解し, 分析することのよさを認識しようとしている。 ●度数分布表やヒストグラムでデータを整理し, その特徴をとらえようとしている。 ●データを散布図で表し, 相関係数とともに相関関係をとらえようとしている。

7. 単元を通して思考を深める発問・中心的な問い

- 数量の関係や変化はどうなっているか。
- データを整理・分析することによって, どのようなことが読み取れるか。

(2) 本時の展開

	学習内容と活動 (○教師の活動 ●生徒の活動)	留意点	形態	評価		
				知	思	態
導入 5分	○これまでの学習内容(代表値, 5数要約, 四分位数など)を確認する。	・前時までに学習したことを理解しているか確認する。	一斉	○		
展開 40分	○本時の問題を提示する。 (3人の選手が最近10試合であげた得点を低い順に並べたものを提示)					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問① あなたが監督ならば, どの選手を起用するか。また, その理由は?</p> </div>	・なんとなくの感覚でもよいので, 自分の考えが言えればよいものとする。	一斉			○
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問1 表は, 3人の選手が最近10試合であげた得点を低い順に並べたものである。このデータにおいて, 平均値, 5数要約, 範囲, 四分位範囲を求めよ。また, 箱ひげ図をかけ。</p> </div>					
	<p>●問題を解く。</p> <p>●答えを発表してもらう。</p>	・データから読み取る数値を間違えないか丁寧に確認していく。 ・まずは個人で問題を考えさせ, その後, 答えを共有させる。	個人 ペア	○		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問② 答えをみて, 気がついたことやわかったことは何かあるか? また, それぞれの選手の特徴としてどのようなことがいえるか?</p> </div>		一斉		○	○
	<p>●気がついたことをプリントにかいてもらい, 発表してもらう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される生徒の答え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均値が同じでも範囲が異なる ・人によってばらつきが異なる </div>	・答えや箱ひげ図を見て読み取れることを, できるだけ多く発表してもらう。			○	

	<p>問2 問1のデータにおいて、次の問いに答えよ。</p> <p>(1) Aさんの平均値を1点上げるためには、一番低い得点である4点を何点にすればよいか？</p> <p>(2) Bさんはどれくらいの割合で平均値以上の得点を取れているか？</p> <p>(3) Aさんのデータにおいて、最小値を変化させたら平均値や中央値はどう変化するか。</p>					
	<p>●問題を解く。</p> <p>●答えを発表してもらおう。</p>	<p>・与えられたデータをまとめるだけでなく、そのデータをどのように変化させたら自分が求めたい答えがでてくるかまで問題を発展させる。</p> <p>・平均値や中央値の正確な値を求めることができなくても、どのように変化するかの意味を考えさせる。</p>	<p>個人 ペア 一斉</p>		○	
	<p>発問③ あなたが監督ならば、どの選手を起用するか？その理由は？</p> <p>●気がついたことをプリントにかいてもらい、発表してもらおう。</p> <p><予想される生徒の答え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Bさん。最大値が一番高いから ・ 誰でも同じ。 平均値が同じだから。 	<p>・ 正解のない問いに対しても、自分の考えが理由も含めしっかりまとめられればよいものとする。</p>			○	○
<p>まとめ 5分</p>	<p>○データを整理・分析することで様々なことを読み取ることができ、物事に利用できることを確認する。</p>	<p>・データを整理・分析することの有用性を確認しながら振り返りをする。</p>	<p>一斉</p>			

高等学校外国語学習指導案

日 時
 学 校 名 ○○県立○○高等学校
 実施クラス ○年 ○組
 (男子 女子 計)
 指 導 教 諭
 授 業 者

1. 単元名：Lesson 8
 使用教科書

2. 単元目標

北欧スウェーデンの文化や気候の違いなど、アイスホテルについて読んだり、聞いたりして理解し、外国や外国語に興味を持ち、自分の行ってみたい国等について表現するなど、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

3. 単元について

(1)生徒観

外国に対する興味、関心はあるが、幅広い知識は持ち合わせていない生徒が大半である。スウェーデンという国について理解を深め、他の外国についての興味関心を引き出したい。また、英語を使って伝え合う活動にまだ慣れていない生徒が多いので、心理的なハードルを下げながら進めていきたい。

(2)教材観

観光業等に興味のある生徒が多いので、アイスホテル、という寒い国特有の観光についての知識を深め、外国の観光、地元の観光についても考えるきっかけとしたい。また、観光客の視点から自分の参加してみたいアイスホテルのアクティビティや自分の行ってみたい国や場所について表現することにつなげたい。

(3)指導観

教師の行ってみたい国について書かれた文を読み、質問に答えながら自分の意見を述べる、というパフォーマンス課題(インタビューテスト)を設定する。ICT を活用し、アイスホテルについての知識、表現に必要な技能を身につけ、グループ活動で準備型パフォーマンス課題に取り組む。インタビューテスト(チャレンジ型パフォーマンス課題)に向けての段階的な指導を行い、主体的に課題に取り組む態度を育成したい。

4. 単元の総時間 8時間

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① アイスホテルについてや関連する英文を読み、文化や気候の違いなどを理解して	③ 海外の観光アクティビティや行ってみたい国について聞いたり読んだりして理解	⑤外国や外国語に対する興味を持ち、相手の考えを理解し、コミュニケーションを図る

いる。 ②現在完了形などを適切に用いて、英文を書いたり読んだりする技能を身につけている。	し、質問したり、答えたりすることができる。 ④自分の興味のある国や活動について英語で表現することができる。	うとし、自分の考えを主体的に表現しようとしている。
---	--	---------------------------

6. パフォーマンス課題

インタビューテスト(1対1):教師の行きたい国について書かれた英文を読み、理解し、質問に答え、自分の行きたい国について述べる。

「話すこと(やりとり)」

【パフォーマンス課題のルーブリック】

質問1:英文の内容理解に関する問題

質問2:英文の内容に関連した内容の質問に対して、自分の意見を述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手にわかりやすい音声等で、英文を適切に読むことができる。 質問1に適切に答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問2の内容に対して、自分の意見を理由とともに詳しく述べている。 	英文を読み、質問1, 2について聞き手に伝わりやすいよう工夫しながら話して伝えようとしている。
B	<ul style="list-style-type: none"> 多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度で英文を聞き手にわかりやすい音声等で、読むことができる。 多少の誤りはあるが、質問1に答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多少の誤りはあるが、質問2の内容に対して、自分の意見を理由とともに述べている。 	英文を読み、質問1, 2について話して伝えようとしている。
C	「B」を満たしていない	「B」を満たしていない	「B」を満たしていない

7. 単元の指導計画

評価方法: ○指導に生かす評価 ◎指導に生かすとともに記録して総括に用いる評価

学習活動の領域:「聞く」=L 「読む」=R 「話す(やりとり)」=I 「話す(発表)」=P 「書く」=W

時間	☆本時の目標・学習活動	学習の領域	評価の観点と評価方法
1	☆アイスホテルってどんなところかを知り、必要な語彙を習得する。 ・視覚教材(スウェーデン、アイスホテル)を使ったクイズ活動 ・新出語彙の学習 ・ワークシート、自己評価シートの記入	R/L/W	○知① ワークシート ○態⑤ 自己評価シート
2	☆本文の内容理解① Quizlet で語彙、表現の学習 ・part 1 の内容理解(ペアワーク) ・Small Talk	R/L/I/W	○知② ワークシート ○態⑤ 自己評価シート

3	☆本文の内容理解② ・前時の復習(Kahoot!) ・part 2 の内容理解(グループワーク) ・Small Talk	R/L/P/I/W	◎知①② ワークシート (後日ペーパーテスト) ○態⑤ 自己評価シート
4	☆準備型パフォーマンス課題① ・本文に関する英文を級友に説明する、説明を聞く、質問する、答える。 ・語彙、表現の学習(確認と活用) ・グループで新しい英文に取り組む。(zigsaw)	R/L/W/I	○思③ ワークシート
5	☆準備型パフォーマンス課題② ・ループリックを理解する。 ・前時にグループで取り組んだ課題を異なるグループのメンバーに説明する。(zigsaw) ・相手の説明を聞いて質問する。 ・互いに評価する。		◎思③ ワークシート・ループリック ○態⑤ 自己評価シート
6	☆チャレンジ型パフォーマンス課題① ・前時の Review (Quizlet) 全体 ・インタビューテスト ・Writing 活動(自分の行きたい国や地域について書く。)	R/L/I/P/W	◎思③④ インタビューテスト Writing 活動 ◎態⑤ 自己評価シート
7	☆チャレンジ型パフォーマンス課題② ・前時の Review (Quizlet) ・インタビューテスト ・Writing 活動(自分の行きたい国や地域について書く。)	R/L/I/W	◎思③④ インタビューテスト Writing 活動 ◎態⑤ 自己評価シート
8	☆単元のまとめ・振り返り ・語彙・表現の確認(Quizlet/Forms) ・パフォーマンス課題の自己評価 ・Writing 活動の仕上げ	R/L/I/W	◎知①② Forms のクイズ ◎思④ Writing ◎態⑤ 自己評価シート

8. 本時の展開 (6/8時間)

本時の目標 ①チャレンジ型パフォーマンス課題(インタビューテスト)に取り組む。

②自分の参加したいアクティビティについて、理由を2つ以上含めてまとまりのある英文を書く。

	学習活動・指導上の留意点	領域	評価規準・方法
導入 10分	【学習活動】 ・前時の Review (Kahoot!)	R/I	○行動観察

	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワーク Small Talk Which activity do you want to join? 【指導上の留意点】 ・Kahoot!はインタビューテストに向けて個人で取り組ませる。 ・Kahoot!での質問に Small Talk の課題を提示し、スムーズに次の活動に進めるように配慮する。 ・Small Talk が Writing 活動の Warm-Up とする 		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> 【学習活動】 ・2つの活動を同時に進行し、生徒それぞれが活動を進める。 ①チャレンジ型パフォーマンス課題 ②Writing 活動 【指導上の留意点】 ・展開クラスをたたんで、ALT を含む複数教員で対応する。 ・インタビューテストの流れをパワーポイントで説明する。 ・ライティング活動の生徒への説明、指導。 	R/L/I/P/W	<ul style="list-style-type: none"> ◎思③④ ◎思④
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 【学習活動】 ・自己評価シートの記入 ・教師からのフィードバック 【指導上の留意点】 ・次の時間の指示を明確にする。 	L/W	<ul style="list-style-type: none"> ◎態⑤ 自己評価シート

高等学校理科(生物) 学習指導案

日 時： 令和〇年〇月〇日 (〇校時)
場 所： 〇〇県立〇〇高等学校 生物教室
対 象： 〇年〇組(〇名)
授 業 者： 〇〇〇〇
指 導 教 員： 〇〇〇〇
教 科 書： 〇〇〇〇

1 単元名 「個体群と生物群集」

2 学校全体を通して育成したい資質・能力

論理的思考力、課題発見力、課題定義力、実践・表現力、情報収集力、公共性、主体性、協調性
本単元での重点：「実践・表現力」

3 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元に関係して中学校では、生態系を構成する生物間の食物連鎖、生態系内の物質の循環における生産者や消費者の役割、そして人間活動が生態系に与える影響について学んでいる。高等学校では、生物基礎において気候の違いによって様々なバイオームが成立することや、水域も含めた様々な生態系が存在すること、生態系のバランスや保全に向けた具体的な取り組みについて学習することになっている(高等学校学習指導要領解説理科編, 2009)。

本単元では個体群と生物群集を取り扱う。個体群については、その変動について理解させることがねらいであり、個体群内や個体群間の相互作用によって個体群が変動することを扱う。生物群集については、生物基礎で学習したバイオームの概念をふまえながら、多様な種が共存する仕組みを理解させることがねらいである。生物群集の成り立ちについては、様々な個体群が集まり、それぞれが特定の生態的地位(ニッチ)を占めることを扱う。

(2) 生徒観

対象となるのは〇〇高校〇年〇組である。6月に実施した事前アンケートでは、グループやペアで意見を出し合うことで良い考えが浮かんだ経験が「よくある」「ときどきある」生徒が75%、授業中に疑問があるときに仲間に質問を「よくする」「ときどきする」生徒が85%いた。これはクラス内の生徒同士の関わりが良好な状態であることと、生物の授業において昨年度から継続してプレゼンに向けた準備をペアやグループで続けてきたことの影響と考えられる。また、生物で学習する5つの分野「生命現象と物質」「生殖と発生」「環境応答」「生態と環境」「進化と系統」のうち、比較的興味のある分野を選択させたところ、本単元を含む「生態と環境」を選んだ生徒は20%にとどまった。一方で「生物の授業は将来の自分にとって役立ちそうか?」との質問に「そう思う」「少しそう思う」と回答した生徒が68%おり、生物の授業に対する意欲は比較的高いといえる。

(3) 指導観

個体群の変動と相互作用、生物群集の成り立ちとその中で多様な種が共存するしくみについて理解させる。その際、学校敷地内の身近な生物群集を教材として活用することで学習内容に対する生徒の関心と意欲を高め、生物に対する気づきを引き出す。単元のはじめに校内に生息する昆虫の捕獲を行い、その活動を通して個体群や生物群集に対する生徒の発見や疑問を引き出す。それらの気づきを単元内の主要な概念や用語の定着に結び付け、探究活動に生かすことができるように指導する。また、授業におけるペア活動・グループ活動を通して様々な意見に触れる中で科学的な思考力を高め、発表に向けた作業を通して判断力や表現力を育成する。実験・観察で生物を扱うときには、衛生面や生物を丁寧に扱うなど生命倫理に配慮する。

4 単元の目標

(1) 知識・技能

個体群と生物群集、生態系のことを理解するとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けるようにする。

(2) 思考・判断・表現

観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物間の関係性及び生物と環境との関係性を見いだして表現する力を養う。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

生態と環境に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生態と環境について、個体群と生物群集を理解しているとともに、それらの観察・実験などに関する技能を身に付けている。	生態と環境について、観察・実験などを通して探究し、生物間の関係性を見いだして表現している。	生態と環境に主体的に関わり、見通しを持った振り返りなど、科学的に探究しようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画（全 8 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考・評価方法
1	生態系における個体と個体群 ・グループ内で発見や疑問を整理して発表する。 ・個体群の分布様式と、その調査方法を理解する。	知		他者と協力し、捕獲と標識の作業ができる。 【行動分析】
2	個体数の推定 ・個体数の推定方法について理解する。 ・再捕法により推定された個体数について、その妥当性を検討する。	知	○	個体群の分布様式と生息環境の関係、その調査方法について理解している。 【記述分析】
3	個体群の成長と密度効果 ・個体群の成長について学ぶ。 ・密度効果と個体数の変動に関する文章を作成する。	思		正確な推定をするための方法について、根拠を持って提案できる。 【記述分析】
4	密度効果と相変異 ・動物における密度効果と植物における密度効果について理解し、説明できる。	思	○	個体群の年齢構成を読み取り、根拠をもって将来を予測できる。 【記述分析】
5	個体群内の相互作用（1） ・個体群の年齢構成や生存率について理解する。	知		生物の生活と生存曲線との関係について考察し、説明できる。 【記述分析】
6	個体群内の相互作用（2） ・群れと縄張りの最適な大きさが決まるしくみを理解する。	思		縄張りサイズを決める要因について考察し、説明できる。 【記述分析】
7	個体群間の相互作用 ・被食と捕食の関係性から種間競争について学ぶ。 ・実際の摂食行動を観察し、種間の相互作用について考察する。	思	○	競争や共生などの相互作用について考察し、説明できる。 【記述分析】
8	多様な種の共存 ・外来生物の侵入の事例からニッチの概念を学ぶ。 ・ニッチの分割と種の共存について考察し、発表する活動を行う。	態	○	単元の学習について、自己の成長や変化に関して表現している。 【記述分析】

*記録の欄に○が付いていない授業においても、教師が生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かす。

7 本時の指導展開（第4時間 / 全8時間）

(1) 本時のねらい

動植物の密度効果を理解し、個体群の年齢構成から個体数動態を予測できるようにする。

(2) 評価規準

【思考・判断・表現】

沖縄県の人口ピラミッドから将来の年齢構成について根拠をもって予測できる。

(3) 評価のポイント

- ・与えられたキーワードを用いているか。
- ・主語と述語が明確で、論理的に表現できているか。

(4) 準備する教材・教具：

- ・プロジェクター、スクリーン、iPad

(5) 本時の展開

過程	◇学習活動	・教師の支援	形態	準備備考	評価方法
導入 5分	◇ 既習事項を確認 ◇ 写真に一言→ペアで一言発表 ◇ 本時のめあてを確認	・バッタの標識再捕獲とその結果を確認させる。 ・バッタの群生相、蝗害（動画）を紹介する。	一斉	プロジェクター スクリーン	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 個体群の情報から将来の個体数を予測できる。 </div>				
展開 40分	◇ 知識を獲得する。 ◇ 調べて共有する。 個人(2分) → ペアで共有(2分) → 発表(数ペア) ◇ 考察し表現する (R50※)	・サバクトビバッタの相変異（孤独相・群生相）について説明する。 ・群生相になる利点を考察させる。 ・3種類の年齢ピラミッドについて調べさせる。 ・年齢ピラミッドを作る意義を説明する。	ペア ↓ 一斉		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> テーマ：2015年の人口ピラミッドについて予測せよ。 Key Words 「生殖層」 </div>		個人↓ペア	iPad	【思】 記述分析
まとめ 5分	◇ グラフ化の意義を確認	・予測することの重要性、有用性を伝える。	一斉		

※ R50(アール ごじゅう)・・・テーマに沿って50文字で文章を作成する。

ただし、教師が指定した言葉を用いなければならない。茨城県立中等教育学校で実践されているR80(アール・エイティ)を参考としている。「R」は「リフレクション(振り返り)」「リストラクチャー(再構築)」の頭文字

(6) 探究活動との関わり

新学習指導要領解説理科編（2018年告示）では、資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ（探究の過程）が示された。このイメージ図を①から⑧の活動に整理したのが右図である。

本時では展開における知識を活用する活動（R50※）で「⑦考察、推論」と「⑧表現、伝達」の各過程を生徒に経験させる。

探究の過程

発見 ① 気づき
② 課題の設定

追究 ③ 仮説の設定
④ 計画の立案
⑤ 観察、実験
⑥ 結果の処理

解決 ⑦ 考察、推論
⑧ 表現、伝達

次の探究へ

高等学校農業（科目「生産加工」）学習指導案

学校名：〇〇県立〇〇高等学校
 日 時：令和 年 月 日() 校時
 場 所：
 対 象：年
 男子 名 女子 名 計 名
 単位数：2 単位
 授業者：教 諭

1 単元名 「訳あり食材を活用したオリジナルジャムの開発」

2 本時の学習指導

(1) 検証授業

日程：令和3年10月12日（火） 1・2校時 9時10分～11時00分

対象：食料生産科2年 20名

(2) 主題名「ジャム製造における原料の特性を知ろう」

(3) 本時の目標

- ① 各種ジャムの色や風味を比較し、原料の特性等を具体的に説明できる。（思）
- ② ニンジンの主原料にしたアレンジジャムを考えてみよう。（主）

使用教材

学習の記録簿、ワークシート

(4) 本時の評価規準

評価規準 (学習内容)	具体的な評価規準			評価方法
	Bおおむね満足できる	A十分に満足できる	C努力を要する (指導の手立て)	
【思考・判断・表現】 ジャムの観察や試食を通して各原料がジャムの色や甘さ、風味にあたる影響を発見し、それぞれの特性を具体的に説明することができている。	各原料を使うとどんなジャムになるのか、基本のジャムとそれぞれ比較しながら色と甘さに関して3種類以上のジャムを説明する事ができる。	各原料を使うとどんなジャムになるのか、基本のジャムと比較しながら色と甘さ、ニンジンの風味に関して4種類のジャム全てを説明する事ができる。	原料の違いがジャムの色や甘さにどのように影響したかを、配布した資料を見ながら確認し、ワークシートへ記入するように指示する。	■ワークシート① (総括的評価) ■行動観察 (形成的評価)
【主体的に学習に取り組む態度】 これまでに学んだ各素材の特性をふまえ、ニンジンを主原料とした新たなジャムを開発するために必要な原料を、自ら主体的に考える事ができている。	ニンジンを主原料とした新たなジャムに使用する原料が、目標を達成するために適した原料を選択し、ジャムの味わいについても考えられている。	ニンジンを主原料とした新たなジャムに使用する原料が、目標を達成するために適した原料を選択し、ジャムの味わいや風味、口当たりなど具体的に考えられている。	原料の特性を示した資料の見方を説明する。また、どのようなジャムを製造してみたいか考えるように指示する。	■ワークシート② (総括的評価) ■行動観察 (形成的評価)

3 本時の展開

評価の観点（【思】思考・判断・表現、【主】主体的に学習に取り組む態度）

	主な学習活動	指示・説明及び 指導上の留意点	【観点】 ■評価方法
【本時の目標①】 各種ジャムの色や風味を比較し、原料の特性等を具体的に説明できる。			
導入 5分	<p>○本時の学習内容を知る。</p> <p>○発問を聞き、本時の学習内容についてイメージする。</p> <p>○前時を振り返る。</p> <p>○ワークシートを確認する。</p>	<p>●本時の学習内容を説明する。</p> <p>【発問】</p> <p>① 黒糖を使ったジャムはどんな色でどんな味になるのか？</p> <p>② オリゴ糖は、どんなジャムを作る時に向いているのか？</p> <p>それらを考え、説明できる事が本時の目標である事を認識せる。</p> <p>●前時の振り返りを行う。</p> <p>●前時に使用した資料を本時の授業でも活用する事を伝える。</p>	
展開① 45分	<p>○説明を聞き、各班で試食の準備に取り組む。</p> <p>【グループ活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4名で1グループ。 ・個人で考える（15分） ・グループで考えをまとめる（15分） ・グループの考えを発表する（15分） <p>【個人の活動 15分】</p> <p>○5種類のジャムが基本のジャムと比べ、色や甘さ、風味等がどのように変化したのか、ジャムの特徴を説明する。また、そのジャムの特徴から、各原料がジャムの色や甘さ、素材の風味に与える影響について説明文を作成する。</p>	<p>●各テーブルでグループワークに取り組み、ジャムの試食の方法とワークシートへの記入方法について説明する。</p> <p>【個人の活動 15分】</p> <p>●基本のジャムと原料が異なる5種類のジャムを試食し、各原料がジャムの色や甘さ、素材の風味等がどのように変化したのかを記録し、各原料がどのような特徴であるか、説明文を個人で考えるように指示する。</p> <p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本のジャムときび砂糖を使ったジャムの特徴と、原料の特徴の説明文の作成方法は、ワークシート①の例文を参考にする事。 <p>ジャムの色や甘さ、風味に関して感じた事を「ジャム」の欄へ記入する事。そこからわかった原料の特徴は「原料」の欄に記入する事。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>■ワークシート① (総括的評価)</p> <p>評価方法は 4. 評価の目安 ワークシート①を参照。</p>

	<p>【グループ活動 15分】 ○グループの生徒同士でワークシート①の内容を比較し、気づいた事や考えた事を記入する。(15分) (グループ発表用のプリントに記入)</p> <p>【グループ活動 15分】 ○グループで考えた各ジャムと原料の特徴を発表する。また、他班の発表を聞き、気づいた事や考えた事は、個人のワークシート①に記入する。</p>	<p>【グループ活動 15分】 ●グループの生徒同士で、各自で作成した各ジャム及び原料の特徴についてワークシート①の内容を比較するように指示する。 各ジャムと原料において、説明文の内容が一致している場合は、グループの考えとして説明文を発表用プリントへ記入する事を指示する。 説明文の内容が異なる場合は、再度話し合いを行い、グループの考えとして説明文を作成するように指示する。 また、他者の意見を聞いて、気づいた事や考えたことも記入するように指示する。</p> <p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で考えた4種類のジャムと原料の特徴を記した説明文を比較し、共通点や異なる点を書き出して下さい。 ・同じジャムや原料で、同じ説明がされていた場合は、グループの意見として説明文を作成してください。 ・異なる説明がされていた場合は、もう一度試食するか、話し合いを行い、グループの説明文を作成して下さい。 <p>【グループ活動 15分】 ●発表する順番を指示する。 他のグループの発表で気づいた事や考えた事があれば、ワークシート①に自分の考えを書くように指示する。</p>	<p>■行動観察 (形成的評価)</p> <p>机間巡視を行い、各自で作成したジャム及び原料の特徴を比較するように声をかけを行う。 活発に話し合いが出来ている班は褒め、うまく話し合いができていない班へは、活発に活動している班を参考にして話し合いを進めるようにと声掛けを行う。</p>
<p>休憩 10分</p>			
<p>展開② 10分</p>	<p>【個人の活動 10分】 ○各原料がジャムの色や甘さ、素材の風味に与える影響について、解答例を見て、個人やグループで出てこなかった考えについてワークシート①に記録し、気づいた事や考えた事を記入する。</p>	<p>【個人の活動 10分】 ●各原料がジャムの色や甘さ、主原料の風味に与える影響について解答例を掲示し、各自で導き出せた答えと、出せなかった答えについて気づかせる。</p>	

		説明を聞いて気づいた事は、ワークシート①へ記入するように指示する。	
展開③ 35分	【本時の目標②】ニンジン为主原料にしたアレンジジャムを考えてみよう。		
	<p>○目標②の内容を知り、売れるジャムを作るためにはどうしたらいいのか考える。</p> <p>【個人の活動10分】 ○各自で2つのジャムを試食し、基本のジャムと比べて、色や甘さ、素材の風味がどのように変化しているかワークシート②に記入する。(5分)</p> <p>○農産物を変える事で、色や風味がどのように変化したかを記録し、気づいた事を記録する。(5分)</p> <p>【個人の活動10分】 ○ニンジン为主原料として新たなジャムについて、ニンジンの特徴を残すか残さないか考え、使用するジャムに使用する①糖類②酸味料③農産物等を選択し、その理由を記入する。</p>	<p>●目標②の内容を説明する。</p> <p>【発問】</p> <p>① ニンジン为主原料にしたジャムをこれからみんなで考えていきたいが、今までに試食したニンジンジャムは、売れる商品だと思うか質問する。</p> <p>② 売れるジャムにするためには、どのような工夫が必要だと思うか考える事が、今回の課題である事を認識させる。</p> <p>【個人の活動10分】 ●主原料がニンジンのジャムを2つ試食し、色や甘さ、風味がどのように変化しているか考えるように指示し、ワークシート②に記入するように指示する。(5分)</p> <p>●2つのジャムに使用したジャムの農産物を伝え、各原料がジャムの色や甘さ、素材の風味に与える影響を記入するように指示する。(5分)</p> <p>【個人の活動10分】 ●これまで学習した糖類、酸味料、及び、校内で生産している農産物を組み合わせて、ニンジン为主原料とした新たなジャムを考えるように指示する。</p> <p>【説明】 ・主原料であるニンジンの特徴を残すのか、残さないのかを先に考える事。その後、目標とするジャムの色や甘さ、風味を達成するために使用する原料を考え、その原料を選んだ理由をワークシート②に記入して下さい。</p>	<p>【主】 ■ワークシート② (総括的評価)</p> <p>評価方法は 4. 評価の目安 ワークシート②を参照。</p>

	<p>【グループ活動 15分】</p> <p>○グループの生徒同士で、互いのアイデアを比較して、最も売れると思うジャムのアイデアを1つ選ぶ。</p> <p>このアイデアについてグループの生徒同士で更に話し合い、目標を達成するために使用する原料を、具体的に考える。</p> <p>○指名された班は、グループで考えているアイデアを発表する。</p> <p>○試食チェックは、新商品のレシピ作成をする際重要である事を理解する。</p>	<p>【グループ活動 15分】</p> <p>●各自で考えた新たなジャムのアイデアを比較し、班のメンバーの中で一番売れると感じたアイデアを1つ選ぶ。</p> <p>その後、班の生徒同士で意見を出し合い、目標のジャムの特徴や、それを達成するために使用する原料等を考えるように指示する。</p> <p>●1～2班を指名し、発表するように指示する。</p> <p>●売れる商品を作るためには、原料の特性を学び、試作と試食を繰り返す事が重要である事を説明する。</p> <p>【説明】</p> <p>この時間内では完成できないグループもあると思うが、それぞれの班で考えたアイデアは、次回の授業で再度内容を確認し、12月の即売会以降の授業で試作してみる事を伝える。</p> <p>今後も、売れる商品を作るためには、試食などの調査を繰り返し、各種原料の特性に関する理解を深め、どのように活用していくかを思考していく事が大事である事を伝える。</p>	<p>■行動観察 (形成的評価)</p> <p>グループの生徒同士で話し合いができているかを机間巡視しながら確認する。</p> <p>具体的に話し合いが進んでいる班を指名し、内容を発表させ、どのように話し合い、具体的に原料を決めていくのかを説明する。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○本時の授業で理解した事と疑問に思った事を記録簿に記入する。</p>	<p>●本時の授業で理解した事と、疑問に思った事を記録簿へ記入するように指示する。</p>	<p>■記録簿 (形成的評価)</p>

4. 評価の目安について

(1) ワークシート①

【思考・判断・表現】

おおむね満足できる (B) ジャム：基本のジャムと比べてほとんど色の差はないが、甘さは控えめな味わいになる。

原 料：この原料は素材の色に影響を与えず、甘さは控えめにする事ができると考える。

十分満足できる (A)・・・ジャム：基本のジャムと比べてほとんど色の差はないが、甘さは控えめで素材の風味もしっかり感じられる味わいになる。

原 料：この原料は素材の色に影響を与えず、甘さは控えめにし、素材の特徴を残す事ができると考える。

努力を要する (C) と判断した生徒に対する手立て

ジャムの特徴や原料に関する記述において、色や甘さ、風味に関してまったく該当しない内容を書いている。

その場合は、もう一度試食し、資料を見ながら原料の特徴を参考にして説明文を考えるように促す。

(2) ワークシート②

【主体的に学習に取り組む態度】

①主原料であるニンジンの風味を活かすジャムの場合

おおむね満足できる (B)・・・ニンジンの風味を残すために、砂糖を控えめに使用し、レモンとシークワサーを少しだけ使う。

十分満足できる (A)・・・ニンジンの風味を残すために、他の農産物は使用せず、グラニュー糖とキビ砂糖を中心に使用し、レモンとシークワサーを控えめに加える事で、素材の味を保ちつつ、口当たりがマイルドなジャムにしたい。

努力を要する (C) と判断した生徒に対する手立て

ニンジンの色や風味に対して、阻害する恐れのある農産物や黒糖、シークワサーなどを中心に記入されている場合は、もう一度原料の特徴の確認し、考え直すように促す。

②主原料の色を残して、風味等を他の原料で活かすジャムの場合

おおむね満足できる (B)・・・ニンジン特有の色を残すために、追加する農産物は同系色の原料を使用する。また、甘さは控えるために、甘味の少ない砂糖を使用する。

十分満足できる (A)・・・ニンジン特有の色を残すために、追加する農産物はマンゴーやパッションフルーツなどのように同系色の原料を使用する。また、甘さは控えるために、オリゴ糖を使用し、それぞれの素材の風味

が感じられるようにする。

努力を要する (C) と判断した生徒に対する手立て

ニンジンの色に対して、阻害する恐れのある農産物や黒糖、シーワサーなどを中心に記入されている場合は、もう一度原料の特徴の確認し、考え直すように促す。

教育実習の手引き

令和7年（2025）年3月発行

発行者 琉球大学教職課程実習委員会

編集者 琉球大学教職センター

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098-895-8312

琉球大学 連絡先

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

担当 部署	人文社会学部学務係（旧法文学部）	電話：098-895-8188
	国際地域創造学部学務係（旧観光産業科学部）	電話：098-895-8184
	教育学部学務係	電話：098-895-8317
	理学部学務係	電話：098-895-8595
	工学部学務係	電話：098-895-8583
	農学部学務係	電話：098-895-8738